

令和元年6月6日現在

機関番号：34419

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K21151

研究課題名(和文) 欧州単一市場がスウェーデン企業のグローバル・バリューチェーンに与えた影響

研究課題名(英文) A study on the effect on the global value chains of Swedish companies caused by the integration to the European Single Market

研究代表者

丸山 佐和子 (MARUYAMA, Sawako)

近畿大学・経済学部・准教授

研究者番号：90584558

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：スウェーデンのEU加盟が経済に及ぼす影響を分析した結果、以下の三点が明らかになった。第一に、経済制度に関する分析から、3つの制度改革を含む国内の制度変更はスウェーデンの経済制度をオープンな仕組みに変えるものであったといえる。第二に、貿易データを用いた分析により、スウェーデンのEU域内貿易は近隣諸国との間で生じやすく、また継続しやすいことが明らかになった。第三に、このデータ分析作業を行う過程で、EU加盟に伴う貿易統計作成方法の変更により貿易統計の連続性が欠如する問題が生じていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究から得られた成果の学術的意義として、第一に、市場統合により生じる変化を日本と同様の先進国の視点から改めて考察したことが挙げられる。第二に、貿易の外延・内延や貿易の耐久性といった新しいトピックに取り組み、エビデンスを蓄積したことである。第三に、EU域内の貿易構造を分析する新たな視点と手法を提示したことである。

社会的意義としては、第一に英国のEU離脱が注目される中、加盟や離脱に伴い生じうる政策的な変化を実例をもとに提示したことが挙げられる。第二に欧州単一市場への加盟や離脱の影響を定量的に把握する上で支障となるデータ上の問題を指摘したことが挙げられる。

研究成果の概要(英文)：This study investigates the effect of Swedish market integration to the European Single Market. Findings from the study are summarised in the following three points. First, an analysis on the change of economic institution reveals that domestic institutional changes in Sweden, including three institutional reforms, made Swedish economic system more open. Second, an analysis employing trade statistics reveals that Swedish intra-EU trade tends to occur more and to continue longer in trade with neighbouring countries. Third, analysing trade statistics of intra-EU trade reveals that there is a lack of data connectivity before and after 1995 in trade statistics due to a change of the method of data collection.

研究分野：国際経済学，ヨーロッパ経済論，地域経済学

キーワード：欧州連合 地域統合 欧州単一市場 スウェーデン 貿易構造 貿易統計

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

欧州経済地域の発効と欧州連合(以下、EU)加盟によるスウェーデンの欧州単一市場への統合が始まってから20年が経過した。モノ、サービス、資本、労働の移動を自由化した欧州単一市場への統合はスウェーデン企業の国際展開戦略に2つのフェーズで変化をもたらした。第一フェーズではスウェーデンの参加する欧州経済地域の発効とEU加盟により、域内で統一的な通商政策等が導入された。2000年代の第二フェーズではEU東方拡大により、要素賦存状況の異なる地域が域内に共存することとなった。この二段階での環境変化がスウェーデン企業のグローバル・バリューチェーンの形成に影響を与えたと考えられる。

本研究テーマの着想は、これまでに行ったスウェーデン経済に関する2つの異なる分野の分析から得られたものである。1つはスウェーデンの地方自治体の地域開発政策に関する分析である。スウェーデンのEU加盟に伴い、地方自治体はEU構造基金を地域開発政策の財源として活用することが可能になり、地域経済は多大な影響を受けた。もう1つの分析テーマはスウェーデンの対内直接投資関連政策に関する分析である。1990年代以降の対内直接投資受け入れの活発化に関連する政策として1980年代の金融制度改革、1990年代初頭の税制改革を調査したところ、これらの制度改革ではEUの制度との調和を意図していたことが明らかになった。

本研究はこれらを踏まえ、スウェーデンの欧州単一市場への統合が企業活動に与えた影響について、制度の変化と実際の貿易活動に注目して分析したものである。スウェーデンのEU加盟を政治学的観点から扱った研究はあるものの、経済統合としてのEUの機能に注目した分析は国内では行われていない。本研究は我が国のスウェーデン研究において空白ともいえる経済分野を埋める意味をもつ。

2. 研究の目的

本研究では欧州単一市場への統合に伴うモノ・資本の移動の自由化に焦点を当て、以下の3点を課題として国内制度への影響と企業活動への影響を分析とする。

- (1) 市場統合によりスウェーデンはどのような国内制度の変更を必要としたか。
- (2) 欧州単一市場への統合により、スウェーデンの貿易構造はどのように変化したか。
- (3) 市場統合はスウェーデン企業の多国籍活動とそのグローバル・バリューチェーンの形成にどのような変化をもたらしたか。

第一の課題では、欧州経済地域の発効およびEU加盟に伴うスウェーデン国内の制度の調和と、加盟後に国内制度に適用されたEU指令等の政策を精査する。分析対象は企業活動と密接に結びつくモノ・サービス・資本の移動に限定する。第二の課題ではスウェーデンとEU加盟国との貿易構造の変化を明らかにし、企業のグローバル・バリューチェーンとの関係から仮説を立てた上で構造変化の決定要因の実証分析を試みる。1990年から2010年にかけてのデータを中心に分析する予定である。第三の課題では、同期間のスウェーデン企業の立地戦略に注目し、企業レベルのマイクロデータを用いた実証的な分析を行う。なお、本研究では市場統合の効果としてしばしば分析されるマクロ経済への影響については分析を行わない。

スウェーデンの経験に注目するのは以下の理由による。第一に、欧州単一市場は加盟以前に枠組みができあがっており、スウェーデンの事例からは完成した地域統合に遅れて参加するメンバーにとっての統合の効果が明らかになる。これは我が国が今後高度な経済統合を推進する上で参考となる。第二に、スウェーデンは高度な技術を有する多国籍企業を数多く輩出してきた先進国である。企業の海外進出の活発化とそれに伴う産業の空洞化という我が国と共通の課題にスウェーデンも直面している。欧州単一市場というハイレベルの統合の下でどのような経済的課題が生じるか、企業はどのような行動を選択するかと行った点について有益な情報が得られると考えられる。

3. 研究の方法

- (1) 欧州単一市場への統合とスウェーデンの国内制度の調和に関する分析

EUとの自由貿易協定、欧州経済地域、EU加盟という異なるタイプの地域統合がスウェーデン経済に与える影響の違いを整理し、さらに3つの国内制度改革(金融制度改革、税制改革、競争法改正)を分析した。関連する資料や文献を収集し調査を行ったほか、スウェーデンを訪問して政策担当者に対するヒアリング調査および現地の研究者との意見交換を行った。

- (2) 市場統合に伴う貿易構造の変化に関する分析

当初予定していた産業内貿易指数や顕示比較優位係数を用いた分析と付加価値貿易データベースの分析に替えて、近年注目されている貿易の外延・内延(extensive and intensive margins)および貿易の耐久性(duration of trade)に関する分析を新たに行なった。分析には国連の貿易統計ComtradeおよびEU統計局(Eurostat)の貿易統計を用い、スウェーデンのEU加盟(1995年)以降の貿易構造の変化を分析した。あわせてスウェーデンを訪問し経済団体等の担当者に対するヒアリングと意見交換を行ったほか、分析結果の解釈について国内外の研究者と議論した。

- (3) EU貿易統計の連続性に関する分析

上記(2)の分析を進めるにあたり、ComtradeおよびEU貿易統計を整理・分析した結果、EU

加盟前後のデータには断層（質的な違い）が生じており、データと分析手法を見直す必要があることが明らかになった。分析ではデータに断層が生じた理由を明らかにし、実際に貿易統計の連続性が欠如しているかどうかを確認した。また、スウェーデンの貿易統計の分析に詳しい専門家の助言を受けるため、スウェーデンのヨーテボリ大学を訪問した。

なお、当初使用を予定していたスウェーデン統計局のマイクロデータの入手が困難であり使用を見合わせたことから、貿易構造に関する分析を重点的に行うように研究計画を修正した。スウェーデン統計局のマイクロデータの入手を見合わせたのは以下の2つの理由による。第一に、データの購入に十分な予算が確保できなかったことが挙げられる。第二に、データの利用にはEU域内からのアクセスが条件づけられており、長期に滞在し分析を行うための十分な予算が確保できなかったことが挙げられる。実際に当該データを利用している研究者によると、統計解析ソフトも含めてクラウド上で作業を行うため、実証分析を行う際にはEU域内からのアクセスが不可欠であるとのことであった。

4. 研究成果

(1) 欧州単一市場への統合とスウェーデンの国内制度の調和に関する分析

スウェーデンの欧州単一市場への統合に伴う経済制度の変更は二つの側面で生じている。第一に、欧州単一市場への統合、すなわち4つの移動の自由の導入のために直接的に生じた制度変更である。第二に、欧州単一市場への統合を前提に、国内制度をEUの制度に調和させるための制度変更である。

これらの制度変更がスウェーデン企業や経済に及ぼした影響を考察した結果、次の三点が明らかになった。第一に、モノ・サービス・資本の移動の自由化はスウェーデン企業の海外展開の障壁を引き下げ、多国籍的活動を後押しするものであった。第二に資本規制が緩和されたことで外資の流入が増加し、スウェーデン企業の資本関係が大きく変化した。第三に、制度の調和のための各種改革はスウェーデンの経済制度をオープンな仕組みに変えるものであり、国内のみで活動する企業も含むすべてのスウェーデン企業を取り巻く経済環境や競争条件を大きく変えた。

本分析は市場統合により生じる変化やメリット・デメリットを、先進国の視点から改めて考察したものである。また、EUとの関係を複数の統合のタイプの比較を交えて分析しており、英国のEU離脱が注目される中、離脱後の選択肢により生じうる変化の違いを実例をもとに提示している。

(2) 市場統合に伴う貿易構造の変化に関する分析

本分析ではEU域内で貿易される財が多様になっているか、また貿易がより長期に継続するようになっているかを国別・部門別に検証した。その際に注目したのは貿易額の推移ではなく貿易の有無である。分析により、スウェーデンは近隣諸国との間で貿易が生じやすく、また継続しやすいこと、さらに加盟から年を経るにつれて貿易がより長期に行われる傾向にあることが明らかになった。

本分析の学術的な貢献として二点が挙げられる。第一に、スウェーデンと他のEU加盟国との貿易関係の変化を新たな指標を用いて分析したことで、EU域内の貿易構造を分析する新たな視点と手法を提示したことである。第二に、国際貿易論分野で近年注目されている貿易の外延・内延や貿易の耐久性といった新しいトピックのエビデンスを示し、その蓄積に貢献したことである。

(3) EU貿易統計の連続性に関する分析

貿易統計を用いて分析を進める過程で、スウェーデンがEUに加盟したことに伴い貿易統計の連続性の欠如という問題が生じていることが明らかになった。1995年以降のEU域内貿易では税関を通じたデータの蓄積が行なわれず、統計の作成方法が変更されたことが背景にある。

EU加盟前後のデータを分析した結果、貿易される財の数は1994年から95年にかけて大きく変化するケースが多く、作成方法の変更がデータの性質に影響を与える可能性が示された。この結果は、貿易統計を用いてEU統合の経済効果を事後的に分析するにはデータ上の制約があること、定量的な分析を行う際にはデータの作成方法にも留意する必要があることを示唆している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

丸山佐和子「EU加盟と貿易統計の連続性」『国民経済雑誌』第214巻第4号, 79 - 91頁, 2018年, 査読なし。

丸山佐和子 "The EU accession revisited: Why did Sweden join the EU in 1995?", 『国際公共政策研究』第22巻第1号, 27 - 36頁, 2017年, 査読なし。

DOI: 10.18910/65090

丸山佐和子「スウェーデンの欧州単一市場への統合と経済制度の変化」『北ヨーロッパ研究』

第 12 号, 23 - 35 頁, 2016 年, 査読あり。

DOI : 10.24579/janes.12.0_23

[学会発表](計 4 件)

丸山佐和子 "Changes in trade patterns after the EU accession: the case of Sweden", 日本国際経済学会関西支部定例研究会, 2019 年。

丸山佐和子 "The EU accession and changes in trade pattern: the case of Sweden", 学習院大学国際社会科学部 International Economics Seminar, 2017 年。

丸山佐和子 「スウェーデンの欧州単一市場への統合と経済制度の変化」, 北ヨーロッパ学会 2015 年度 (第 14 回) 研究大会, 2015 年。

丸山佐和子 「スウェーデンの欧州単一市場への統合と経済制度の変化」, 日本国際経済学会関西支部定例研究会, 2015 年。

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。